

国土交通省等における最近の主な取組

国土交通省における取組

歩行空間における人・ロボットの円滑な移動の支援に向け、データ整備・更新を効率的に実施できるよう、歩行空間ネットワークデータ整備仕様を改定しました。

改定ポイント

<ポイント1> 簡易な計測によるデータ整備・更新

- 現地調査やデータ入力作業等により時間と労力が必要なため、データ整備・更新があまり進まなかったことを踏まえ、通行時の主なバリアとなる幅員・縦断勾配・段差に関する情報のみの確認とすることで、効率的な歩行空間ネットワークデータの整備・更新を行えるよう改定。

<ポイント2> モビリティの性能を考慮した仕様変更

- 主なバリアである「幅員」「縦断勾配」「段差」の閾値について、電動車椅子や自動配送ロボット等の性能の違いも考慮することにより、歩行空間を利用する人のみならずロボットに対しても活用できるよう改定。

<ポイント3> モビリティ等の走行軌跡を活用したデータ整備・更新

- ランク区分の設定により、現地調査のみで実施してきた歩行空間ネットワークデータの整備・更新を、将来的にはモビリティ等の走行軌跡を活用し、データ整備・更新ができるよう改定。

活用イメージ

従来の自治体が提供するバリアフリーマップや詳細なバリアフリーナビでの活用のみならず、簡易版のバリアフリーナビ（「通れたマップ」）や自動配送ロボットにも活用の幅が広がるよう改定。

従来の活用 … バリアフリーマップや詳細なバリアフリーナビ

[使用データ例]幅員・縦断勾配・段差
の他、誘導ブロック・エレベーター、踏切、信号、屋根の有無、路面状況、バス停等（歩道上の有無）



ガイドマップかわさき バリアフリーマップ
(川崎市)

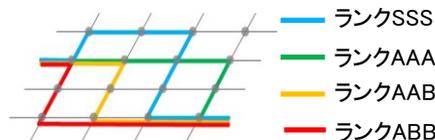
[使用データ例]左記に同じ
[信号等の位置情報の精度]
歩道上の有無



Japan Walk Guide
(日本電信電話株式会社)

改定による活用拡大

バリアフリーナビ
(簡易版「通れたマップ」のイメージ)



* ランク区分別のルート情報やナビ等を提供

自動配送ロボット等への活用

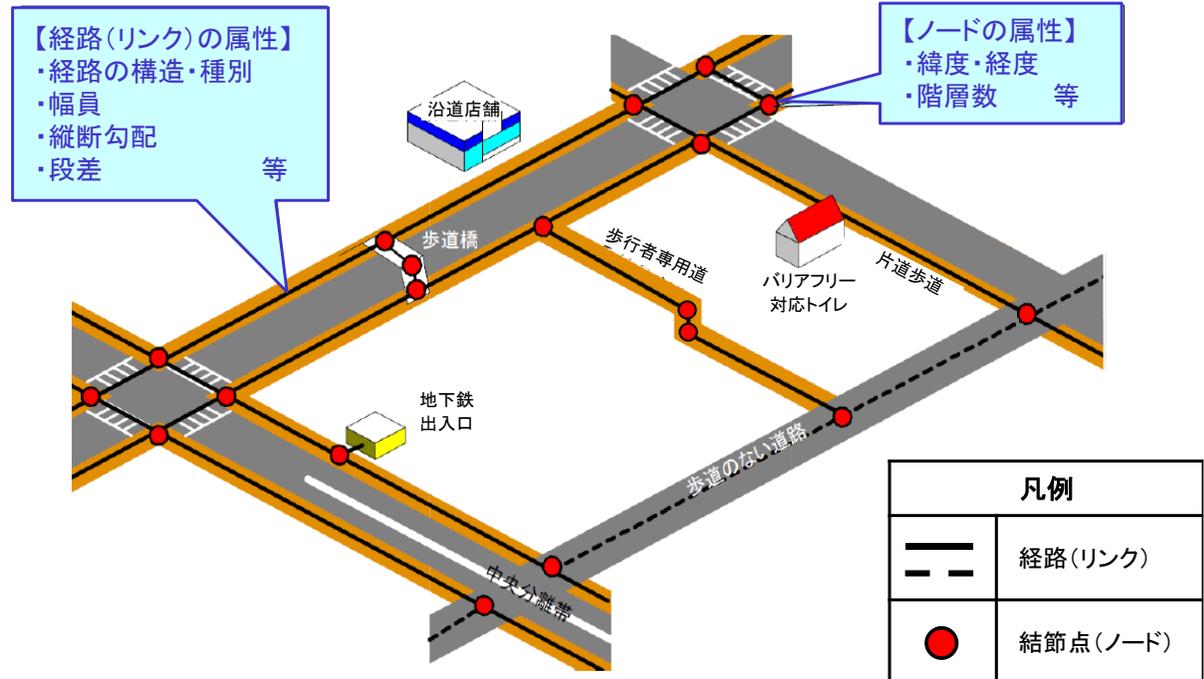


* 自動配送ロボット等が通行可能な経路情報等の提供

- 「歩行空間ネットワークデータ整備仕様」では、歩行空間における幅員や縦断勾配、段差等のバリア情報をデータ化する際の仕様を定めています。
- これらをオープンデータ化することで、民間事業者などによる、多様な利用者のニーズに応じたサービスの開発・提供（段差を回避した経路検索やナビゲーションなど）の普及・促進を目指しています。

歩行空間ネットワークデータ

「歩行空間ネットワークデータ」とは、歩行空間の形状に合わせてノード（点）とリンク（線）を配置し、属性としてリンク延長や経路の構造・種別のほか、段差や幅員などの情報を持たせてデータ化したもの。



サイトラインの確保等に係る検討WGの設置について

趣旨

- 建築物のバリアフリー基準の見直し方針（建築物のバリアフリー基準の見直しに関する検討WG 報告(令和6年3月29日)）において、劇場、観覧場、映画館若しくは演芸場又は集会場若しくは公会堂（以下「劇場等」という。）の車椅子使用者用客席の設置数等に係る基準案が示され、また客席の①サイトラインの確保、②分散配置、③同伴者席に係る事項について、令和6年度に予定している「建築設計標準」の改正等への反映に加え、継続して現状の把握・技術的検討等を進める方針が示されたところ。
- このため、「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準に関するフォローアップ会議」に、学識経験者・障害者団体等・事業者団体・建築関係団体等で構成する「サイトラインの確保等に係る検討WG」を設置し、サイトラインの確保等に係る設計・評価手法の現状把握・技術的検討、及び実効性の高い枠組み等について検討を行う。

検討WGメンバー

学識経験者、当事者団体（車椅子関係）、施設管理者関係団体、設計者団体、審査者団体、関係省庁（オブザーバー）

検討スケジュール（案）

時期	実施計画	
2024(令和6)年6月	第1回検討WG	<ul style="list-style-type: none"> ・検討経緯、課題の共有 ・サイトラインの確保等に係る論点(案)についての意見交換
2024(令和6)年 秋	第2回検討WG	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の共有 ・サイトラインの確保等に係る枠組みの方向性の整理
2024(令和6)年 秋	第7回建築設計標準フォローアップ会議で報告	
2024(令和6)年 冬	第3回検討WG	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトラインの確保等に係る枠組み(案)の提示
2025(令和7)年 年始～初春	第4回検討WG	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトラインの確保等に係る枠組みのとりまとめ
2025(令和7)年 年始～初春	第8回建築設計標準フォローアップ会議で報告	

各地方運輸局・地域分科会の取組

新札幌わかば小学校、JR北海道本社におけるバリアフリー教室の開催

札幌市立新札幌わかば小学校にて、小学4年生を対象に、バリアフリー教室を開催し、視覚障がい者・車いす利用者疑似・介助体験を行った。

- 開催日程：令和6年7月3日（水）
- 主催：北海道運輸局（札幌運輸支局）
- 後援：北海道
- 協力：NPO法人手と手
- 参加者：札幌市立新札幌わかば小学校 4年生50名
- 実施概要
 - ・視覚障がい者疑似・介助体験
 - ・車いす利用者疑似・介助体験



JR北海道本社にて、JR北海道社員を対象にバリアフリー教室を開催し、障がい当事者による講話の後、視覚障がい者・車いす利用者疑似・介助体験を行った。

- 開催日程：令和6年7月2日（火）、9日（火）
- 主催：北海道運輸局（交通政策部バリアフリー推進課）
- 後援：北海道
- 協力：NPO法人プリズムさっぽろ、NPO法人手と手
- 参加者：JR北海道社員33名
- 実施概要
 - ・障がい当事者の講話
 - ・視覚障がい者疑似・介助体験
 - ・車いす利用者疑似・介助体験

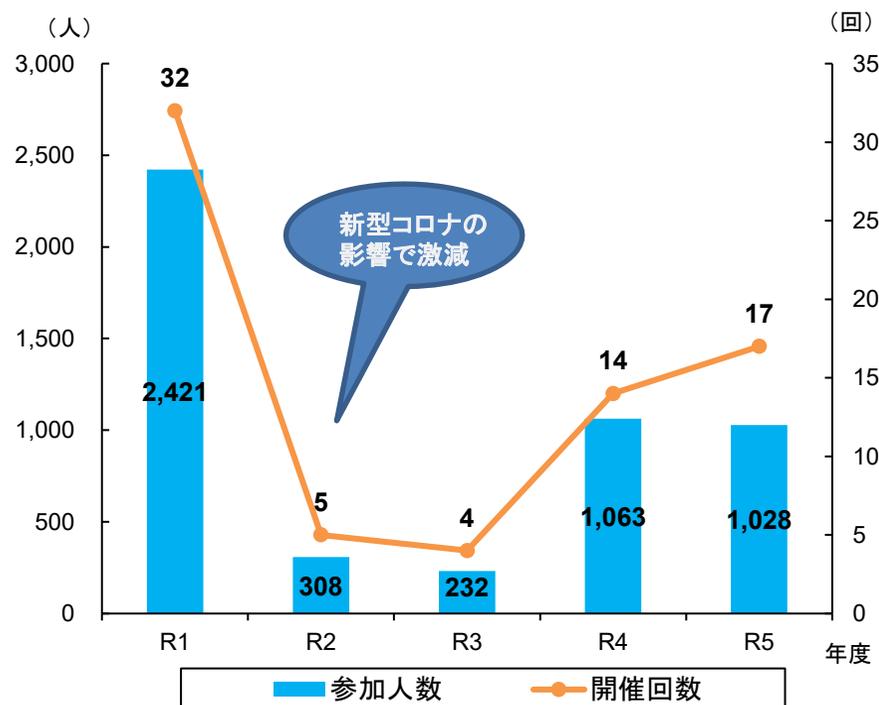


高齢者、障害者等が安心して日常生活や社会生活が出来るようになるためには、施設整備（ハード面）だけではなく、高齢者、障害者等の困難を「**自らの問題**」として認識し、心のバリアを取り除き、その社会参加に積極的に協力する「心のバリアフリー」が重要です。

このため、管内各地において「**バリアフリー教室**」を開催し、疑似体験、介助体験、バリアフリー化された施設の体験等をしていただく場を提供しています。

また、地域が行っている、学校、地方公共団体、NPO、ボランティア団体、障害者団体、福祉施設など多様な主体が、お互いに連携しながら同様の取り組みや活動に対して、情報提供等の支援を行っています。

過去5年間の開催実績



バリアフリー教室の様子



高齢者疑似体験 等

【開催概要】

実施日：令和5年4月

場 所：仙台医療福祉専門学校

主 催：東北運輸局

体に重りやサポーター、ゴーグル等を装着しての歩行、車椅子体験や、アイマスクを装着し介助をうけながら点字ブロック上の歩行、エレベーターへの乗り降りを実施しました。

【主な感想】

- ・『高齢者の体の動かしにくさを体験し少しでもサポートしたいと思った』
- ・『普段の授業では経験できないことを学ぶことができ、あまり考えることの無かったことにまで目を向けることができ良い経験になった』



視覚障害者疑似体験

【開催概要】

実施日：令和5年9月

場 所：秋田駅前「アゴラ広場」ブース出展

主 催：公益社団法人秋田県バス協会

「秋田バスまつり」会場でバリアフリー教室のブースを設け、アイマスク・白杖を使って、点字ブロック上の歩行や、バスへの乗降体験、介助体験を実施しました。

【主な感想】

- ・『白杖を使用しての歩行は怖く、介助者の声かけが大切だと気付いた』
- ・『点字ブロックをたよりに歩くことが大変だと知った。点字ブロックの大切さが良く分かった』



車椅子乗降体験 等

【開催概要】

実施日：令和5年9月

場 所：楽天生命パーク宮城

参加者：仙台市立原町小学校4年生

主 催：東北運輸局、東北地方整備局

協 力：株式会社楽天野球団、仙台市社会福祉協議会、仙台バリアフリーツアーセンター

球場車椅子席までの移動など車椅子体験や、車椅子の方からの日常生活に関わる講話、パラスポーツであるポッチャ体験を実施しました。

【主な感想】

- ・『車椅子での移動が大変なことが分かった』
- ・『講話を聞いて、車椅子の方の困りごとを初めて知った』
- ・『全て貴重な体験となった』



職員研修（聴覚障害）

【開催概要】

実施日：令和6年2月

場 所：東北運輸局2階専用会議室（オンライン併用）

参加者：東北運輸局職員

主 催：東北運輸局

協 力：仙台市社会福祉協議会

仙台市社会福祉協議会で実施している「仙台市障害理解サポーター養成研修」として、東北運輸局職員が参加し、「聴覚障害」をテーマに講義、グループワーク、手話体験を実施。講義では、障害とは何か、社会にあるバリアとは何か、障害を持つ方への配慮等について理解を深め、実際に手話を使って日常で使う挨拶等コミュニケーションの取り方を学びました。

【参加職員からの感想】

- ・障害にも様々な種類があり、周囲や社会が工夫していくことで、皆が生活しやすい世の中に近づいていくのではないかと。
- ・これまでに聴覚障害のある方と関わる機会があまり無かったため、当事者の方が日常生活の中でどのようなことで困っているのか、また当事者の方の見え方等について知ることができ非常に勉強になった。
- ・障害の社会モデルや障害者差別解消法について、改めて勉強できる機会となり貴重な研修だった。
- ・仕事で窓口対応をしているとき、障害を持っている方が来られるときもあるため、今日学んだことを思い出して対応したい。

経緯

- 2027年3月19日～9月26日に、神奈川県横浜市・旧上瀬谷通信施設にて「2027年国際園芸博覧会」(以下、「博覧会」という。)が予定されています。
- 博覧会の準備及び開催運営を行う(公社)2027年国際園芸博覧会協会では、会場を訪れるすべての人々が安全・快適に過ごすことができるよう、施設整備や運営に関するアクセシビリティ・ガイドラインを策定予定であり、関東分科会委員が検討会へ参画する運びとなりました。



(画像: 博覧会協会HPより)

概要

委員構成	移動等円滑化評価会議関東分科会の学識者、障害等当事者団体の委員を中心に、関東分科会長(座長)が推薦する学識者のほか、開催都市の障害等当事者団体(関東分科会の事業者団体及び行政機関も一部オブザーバーとして参加)
事務局	公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会
スケジュール	2025年3月までに策定予定
運営方法	検討会を3回、並行してテーマ別ワーキングの開催を予定



公式マスコットキャラクター
トウキョウトウキョ

2024年度

2025年度

2026年度

2027年度

9月～3月

アクセシビリティ・ガイドライン検討会

9月頃

第1回

テーマ別
ワーキング

11月頃

第2回

テーマ別
ワーキング

2月頃

第3回

3月

ガイドライン
発出(予定)

GREEN
×
EXPO
2027

概要

- 関東運輸局東京運輸支局では、東京家政大学教育福祉学科で学ばれている学生を対象としたバリアフリー教室を開催しました。当日は、自立生活センター・北、トヨタモビリティ東京株式会社のご協力のもと、車いす体験、視覚障がい者疑似体験、福祉車両乗降体験等を行いました。

実施内容

- 日 時：令和6年5月28日(火)、6月4日(火) 両日とも15:20～17:20
- 場 所：東京家政大学板橋キャンパス
- 参加者：人文学部教育福祉学科学生 5月28日(火)：20名、6月4日(火)：15名
- 主 催：東京運輸支局
- 協 力：自立生活センター・北、トヨタモビリティ東京株式会社

【プログラム】

- オリエンテーション
 - ・車いすの操作方法の説明等
- 体験学習
 - ・車いす体験及び介助体験
 - ・視覚障がい者疑似体験及び介助体験
 - ・福祉車両乗降体験及び介助体験
- 質疑応答
 - ・体験に関すること
 - ・バリアフリー施策に関すること



福祉車両乗降体験の体験風景

参加者の声

- ・バリアフリーの大切さがわかった。
- ・福祉車両には普段なかなか乗れないので良い経験になった。
- ・貴重な経験だった。
- ・障がい者の苦勞がわかった。
- ・今後困っている人がいたら助けたい。
- ・たくさんの人にバリアフリー教室に参加して欲しい。
- ・心のバリアフリーの啓発活動が必要だと思う。



車いす体験



視覚障がい者疑似体験

関東運輸局管内では、令和5年度は合計46回、3,042名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

主催	開催場所	対象	参加人数	開催日
関東運輸局 (2回)	横浜市立南本宿小学校	教職員	19	R5.11.6
	横浜第二合同庁舎	自治体等職員 (関東運輸局職員)	23	R6.2.14
東京運輸支局 (5回)	東京家政大学	大学生	18	R5.5.23
			20	R5.5.30
	中野区立みなみの小学校	小学4年生	87	R5.7.13
	板橋区立板橋第八小学校	小学4年生	64	R5.10.6
	江戸川区北小岩小学校	小学4年生	51	R5.10.27
	北区柳田小学校	小学4年生	46	R5.12.6
神奈川運輸支局 (12回)	相模原市立広陵小学校	小学4年生	32	R5.6.16
	横浜市立相沢小学校	小学6年生	61	R5.9.12
	横浜市立港南台第一小学校	小学5年生	102	R5.9.14
	横浜市立左近山小学校	小学4年生	83	R5.10.26
	横浜みなとみらい21新港地区	一般	150	R5.11.11
	横浜市立日枝小学校	小学6年生	113	R5.11.21
	横浜市立今宿南小学校	小学6年生	67	R5.12.1
	横浜市立桜岡小学校	小学6年生	81	R5.12.8
	横浜市立柏尾小学校	小学4年生	86	R5.12.14
	横浜市立川和小学校	小学3・4年生	181	R5.12.19
	横浜市立南本宿小学校	小学4年生	67	R6.1.16
	横浜市立桂小学校	小学5年生	55	R6.2.2
千葉運輸支局 (1回)	八街市立実住小学校	小学4年生	100	R5.11.6
埼玉運輸支局 (2回)	越谷市総合体育館及びその周辺	一般	133	R5.10.28
	イオンモール春日部	一般	172	R5.11.3

主催	開催場所	対象	参加人数	開催日
群馬運輸支局 (2回)	高崎市立岩鼻小学校	小学5年生	56	R5.6.30
	前橋市立天川小学校	小学4年生	81	R5.11.30
茨城運輸支局 (11回)	水戸市立国田義務教育学校	小学6年生	15	R5.9.20
	水戸市立五軒小学校	小学4年生	33	R5.9.21
	水戸市立新荘小学校	小学3・4年生	60	R5.9.26
	水戸市立双葉台小学校	小学4年生	78	R5.9.28
	水戸市立堀原小学校	小学4年生	47	R5.10.2
	水戸市立吉田小学校	小学4年生	110	R5.10.3
	水戸市立稻荷第一小学校	小学4年生	53	R5.10.4
	水戸市立赤塚小学校	小学4・5年生	71	R5.10.5
	水戸市立渡里小学校	小学5年生	94	R5.10.13
	水戸市立酒門小学校	小学4年生	88	R5.10.14
	水戸市立内原小学校	小学4年生	69	R5.10.26
栃木運輸支局 (1回)	宇都宮城趾公園	一般	80	R5.4.30
山梨運輸支局 (10回)	北杜市立武川小学校	小学4年生	15	R5.6.27
	南アルプス市立南湖小学校	小学4年生	22	R5.7.4
	南部町立栄小学校	小学4年生	11	R5.7.7
	北杜市立長坂小学校	小学4年生	55	R5.9.26
	甲州市立勝沼小学校	小学3年生	24	R5.10.26
	甲府市立善誘館小学校	小学4年生	28	R5.11.2
	山梨市立後屋敷小学校	小学3年生	39	R5.11.17
	山梨市立山梨小学校	小学4年生	37	R5.12.6
	甲府市立相川小学校	小学4年生	50	R5.12.12
	笛吹市立一宮南小学校	小学4年生	15	R6.1.30
合計	年間実施46回		3,042	

開催の様子は随時、関東運輸局HPに掲載しています。

概要

- マスタープラン・基本構想を策定・改定中の自治体における有識者・当事者等を含む区民による「まち歩き点検」に積極的に運輸局職員も参加し、『生の声』を聴く機会を設けています。

「まち歩き点検」参加の様子

評価できる点



切符売場カウンター下に車いすのフットサポートを入れるスペース等を設けることで、車いす利用者の方にも切符の購入がしやすい工夫。

↑ 駅の切符売り場

↓ 公園の水飲み場



上の蛇口の下にスペースがあり、車いすに座ったままでも使いやすく、高齢者や子供でも少しの押す力で利用しやすい蛇口の形状。

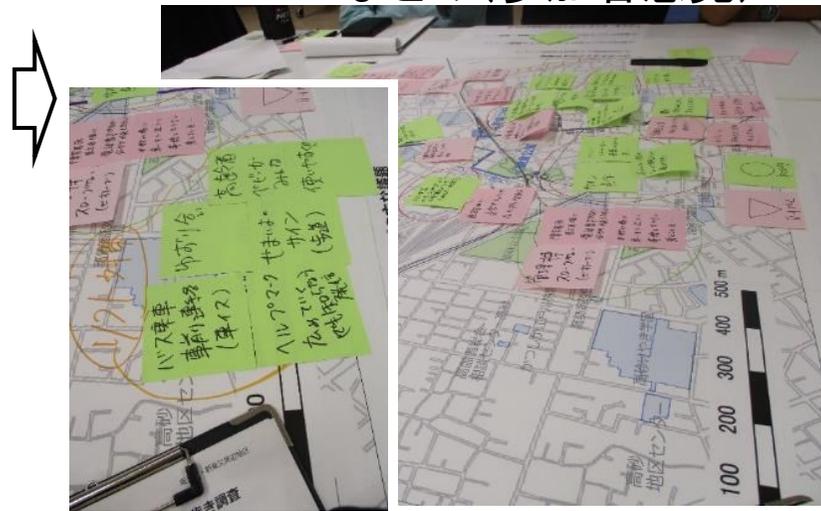
改善の検討が必要な点

一部欠けている点字ブロック

マンホールにより歩道上にある点字ブロックの一部が欠けています。



まとめ(参加者意見)



「まち歩き点検」参加者による評価箇所、要改善箇所を付箋で色分け。協議会において、委員や事業者で特定事業等の検討を行います。

概要

- 関東運輸局埼玉運輸支局では令和6年7月より、埼玉県立大宮北特別支援学校中学部の生徒の絵画作品を展示しています。展示を通じて、支局来訪者の障害者等への理解を深める機会となるよう、心のバリアフリーの推進を図っています。



中学部3年生 共同作品『3年生の木』

額縁は支局職員により季節に合わせた装飾を施しています。下部分にて、「心のバリアフリー」の定義を紹介しています。

【展示状況】



多くの人の目に留まるよう、庁舎出入口の自動ドア横に展示しています。裏面には学校案内を掲載しています。



大宮北特別支援学校は、埼玉運輸支局の近隣（徒歩約5分）に位置しています。（学校外観写真：学校HPより）



バリアフリー体験コーナー

歩道は、高齢者や身体の不自由な方をはじめ、だれもが歩きやすく使いやすいバリアフリー構造でなければなりません。この体験コーナーでは、段差や舗装、勾配などの**障害のある歩道**とバリアフリー歩道があります。車椅子に乗って障害がある場所とバリアフリー化された歩道を比べてみましょう。

●障害のある歩道

- ① 凹凸のある歩道: 車椅子や歩行者の足に障害を及ぼす。
- ② 段差のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ③ 急勾配のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ④ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑤ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑥ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑦ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑧ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑨ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。
- ⑩ 凹凸のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼす。

●バリアフリー歩道

- ① 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ② 段差のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ③ 緩やかな勾配のある歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ④ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑤ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑥ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑦ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑧ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑨ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。
- ⑩ 凹凸のない歩道: 歩行者の足や車椅子のタイヤに障害を及ぼさない。

バリアフリー体験の様子



■ 関東技術事務所には、バリアフリー体験コーナーが設けられており、建設技術展示館HPで体験参加の受付をしています。
(事前申込み)

※令和5年5月31日建設技術展示館リニューアルオープン

令和5年度における実績

- ・ 団体見学: 令和5年5月～令和6年3月 497名(25団体)
- ・ バス乗降体験、車椅子体験(主催: 聖徳大学生涯学習研究所 協力: 関東地方整備局、関東技術事務所、関東運輸局): 25名

過去の体験参加者からの感想

- ・ バリアフリー等について学ぶことはあったが、実際に体験するとひとつの段差で大きな苦労があると知った。
- ・ 車椅子に初めて乗れたのと、目の不自由な人が感じる怖さを体感できた。

バリアフリー教室 (見学デー)

日 時：令和6年7月31日（水） 9：30～15：30
 場 所：新潟美咲合同庁舎 敷地内
 主 催：北陸地方整備局、北陸信越運輸局
 バリアフリー体験参加者：24組

実施概要

地域の方に、国土交通行政の一端を知っていただくことや防災意識の向上を目的として、「北陸地方整備局・新潟地方気象台・北陸信越運輸局見学デー」が開催されました。

イベントスペースに「バリアフリー体験コーナー」を設け、誰もが安心してくらしやすいまちづくりの大切さを学んでもらうため、バスや庁舎施設内での車椅子体験や高齢者疑似体験を通じて「心のバリアフリー」の啓発を行いました。

会場のようす



バリアフリー体験参加者の感想

(車椅子体験)

- ・ 車椅子で乗ると周りの人を待たせてしまい焦ってしまう。お互いに気持ちの余裕が大切
- ・ 車椅子を押すのはかなり力があるので、サポートが必要。

(高齢者体験、白杖体験)

- ・ バスの手すりにつかまらないとうまく車内に入れず苦勞した。
- ・ 点字ブロックの大切さがよくわかった。

日 時： 令和6年5月30日（木） 10：30 ～ 11：30

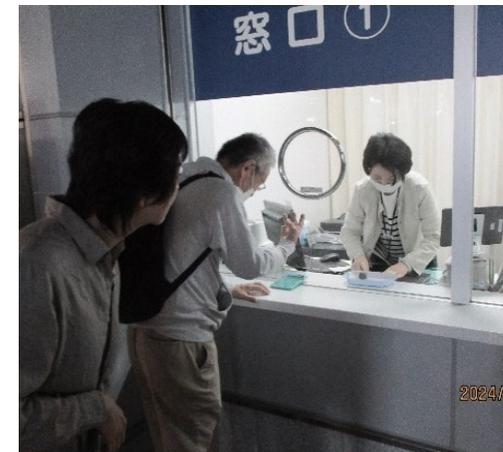
見学先： 新潟駅バスターミナルほか新潟駅エリアの施設・設備

主 催： 北陸信越運輸局 交通政策部

参加者： 新潟県視覚障害者福祉協会、新潟市視覚障害者福祉協会
にいがた自立生活センターまいらいふ（山内氏）

関係者： 新潟市新潟駅周辺整備事務所、新潟市中央区役所建設課、新潟市都市交通政策課
東日本旅客鉄道株式会社、新潟交通株式会社

内 容： 新潟駅バスターミナルをスタート地点として、新潟駅東改札口までを含む一帯の移動
円滑化状況を、障害当事者の方々に実地で確認してもらいました。（最後に振り返り）



【バスターミナル】案内所

「万代口と南口、いずれから来ても目に付く位置に案内所がある方が望ましい」「カウンターの奥行が狭い。位置も高い」
「筆談対応はしてくれたが、(騒音もあり)案内所職員の声が聞き取りづらい」「窓口の案内では手話通訳があるといい」
「書くことに抵抗がある人や時間がかかる人もいるのでタブレットのようなものがあるとよい」「書いてメモを手渡すことが望ましい」

【バスターミナル】バス乗降場

「乗り場番号の横に発車情報を表示すると誰でも分かりやすいのでは」「乗り場案内表示は車いすの高さで視野に入るようにしたほうがよい」
「聴覚障害者には乗り場と行き先が一致した情報でバスに関する情報を一度に知る手段がない。乗車番号の脇に文字情報で運行時間と行き先を表示してほしい」
「施設全体の音声案内や案内サインがわかりにくい。音声案内が少ない」「バスの乗降口と点状ブロック位置が合っていない」
「点字案内版の位置が乗車口から離れた位置に設置されている」「案内板がステンレス製の板なので冷たい」
「(車いす利用者)運転手から『乗られますか』と声かけがありスロープを設置してくれた。運転手の対応の良さや手際の良さは良かった」
「バリアレス縁石を使って、もう少し接近して正着してほしい。特にノンステップはニーリングをして車体を下げて欲しい」
「列を並ばせる足下サインは良いが、柱が邪魔で幅が狭いところがあり、車椅子、盲導犬ユーザーには窮屈ではないか」

【バスターミナル】エレベーター

「一階部分の案内音が小さく、シグナルエイドも対応していない」「大型車いすだと少し狭い。もう少し大きな籠がよい」
「車いすでエレベーターに乗るにはまず上下階ボタンを押し、いったん後退して、籠から降りてくる方のためのスペースを空け、扉が開いている間に乗り込まなければならず、挟まる不安を覚えた」

【バスターミナル】階段

「階段が急傾斜に感じる。上り・下り(通行者)が入り乱れているので、明確にした上で、真ん中にも手すりがあるとよい」

【バスターミナル】全般

「(バス乗り場という6番線から9番線にかけて)照度が低いためロービジョン者が歩行する際、極端に暗く感じやすい」
「構内の音が反響して、話し声が聞こえない。緊急時や災害時等で声での対応が困難と予想」
「音が反響しているため、視覚障害者にとっては方向がつかめない。どこの行き先のバスが来ているかも分からない」
「運転手による繰り返しのアナウンスやアプリによる音声ガイドなどが必要」

【連絡通路】 トイレ

「障害者用トイレの外に非常ボタンと繋がるパトランプがあるのはよい。中で非常ボタンが押された時にその情報はどこに伝わるのか」

「車いすではトイレの開閉ボタンに手が届かない。そのため将来的には携帯電話のアプリで開閉できるようになると良い」

「トイレ手洗い器の下に配管のような機器があり、車いすの形状によっては手洗い器を使えない」

「男子トイレの前だけ音声案内がない」

【連絡通路】 エレベーター

「2階側だけ音声案内がない」 「シグナルエイドでエレベーターの位置をお知らせしてほしい」

【新潟駅東改札口】 券売機

「路線図・文字が大きく掲示されていて良い。一方で、呼び出しボタンを押すと駅員が来るとは思うが、音声で問われたらコミュニケーションがとれない」

「報道にあるようなQR決済が導入されて音で知らせるような仕様になれば聾者には使いにくくなるのでは」

【新潟駅東改札口】 改札

「バスターミナルから上がってまっすぐの突き当たりが在来線の改札で車いすが通れないが、南口方向にある新幹線改札口には車いす改札口と改札機がある」

「車いす改札口の自動ドア開閉が改札直前でも分からず通路を見つけづらい。『←車いす改札口』表記があることが望ましい」

【新潟駅東改札口】 エスカレーター

「みどりの窓口付近のエスカレーターは急に下るようで怖い。音声案内して欲しい」

【施設全般】 駅南口広場など

「横断歩道（南北の横断箇所）の歩行者用信号機にスピーカーが設置されているが、音響が流れていない。（東西の横断箇所）では流れている」

「駅構内とCoCoLoの配置図、営業時間や設備情報を出入口に英語表記併記で掲示すると動きやすい」

「各所に備わっている非常ボタンがどこに通じて、だれがどのような対応をしてくれるか、が分からない。非常用ボタンはあっても聴覚障害者対応（ビデオ対応）になっていない。そのため、どのように対応をしてくれるかを当事者に説明する必要がある」

日時：令和6年7月9日（火）9：15～11：45

見学先：黒部宇奈月温泉駅～宇奈月温泉駅、宇奈月温泉街（富山県黒部市）

主催：移動等円滑化評価会議北陸信越分科会事務局

参加者：移動等円滑化評価会議北陸信越分科会委員等 16名

主な意見等：

（駅及び周辺施設）

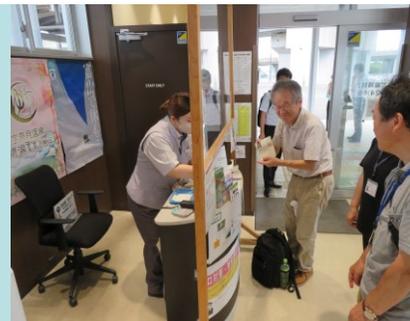
- ・全体的に聞こえない人のためにもっと文字で知らせてほしい。
（例：電車すれ違いで停車していてもなぜ停車しているかわからない）
- ・新幹線駅の外トイレがわかりにくい。
- ・新幹線駅から新黒部駅（富山地鉄）に向かう横断歩道の信号は色が見えにくい場合もあり音響式のほうが良いのではないか。
- ・富山地鉄駅では電車とホームの段差が低く良かった。
- ・宇奈月駅（黒部峡谷）1階インフォメーションの車いす対応カウンターが物置になっていて使えなかった。
- ・同駅2階展示室に授乳室があり落ち着いて授乳できる。また、パニックの際に一時避難的な使用もできるのではないか。
- ・どの駅も駅員の対応は良かった。
- ・フリーWi-Fiを利用できる施設が多く、自分で検索できるのが良い。

（温泉街まち歩き）

- ・本会場施設の多目的トイレはベビーベッドを追加設置したことで狭い。
- ・ホテル内を見学の際、障害になるものには従業員から「排除が必要ですね」というなど、前向きな姿勢が見受けられた。
- ・フリーWi-Fiを利用できる施設が多く、自分で検索できるのが良い。

（施設設置管理者等より）

- ・外国語や点字のパンフレットの要望があるが、内容が常に変わり対応に苦慮。ホームページなどで多言語対応している。
- ・ハード整備に十分投資できない分、ソフト対策で補うようにしている。
- ・案内の仕方として、もっと音声案内があってもいいと感じた。
- ・サイン不十分という現状を理解。好事例などあれば参考にしやすい。



「心のバリアフリー教室」開催について（令和5年度①）

開催日程：令和5年9月14日(木)
 開催場所：静岡県三島市立東小学校
 主催：国土交通省 中部運輸局 静岡運輸支局
 協力：三島市、社会福祉法人三島市社会福祉協議会
 (株)東海バス
 参加者：小学4年生 60名

障がい者の方の講話の後、各グループに分かれて、車いす体験(ノンステップバス乗降体験含む)や、バリアフリークイズに取り組みました。



開催日程：令和5年10月5日(木)、10月6日(金)
 開催場所：福井県坂井市立兵庫小学校、加戸小学校
 主催：国土交通省 中部運輸局
 協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会
 公益社団法人福井県バス協会、京福バス(株)
 参加者：小学4年生 11名、小学4年生 28名

障がい者の方の講話の後、各グループに分かれて、車いす体験(ノンステップバス乗降体験含む)、視覚障がい体験に取り組みました。
 参加児童からは、「車椅子体験では段差を乗り越える時が大変だった、視覚障がい体験はどこに何があるか分からず怖かった、困っている人がいたら今は無理だけど、いつか助けられるようになりたい」といった感想がありました。



開催日程：令和5年10月31日(火)
 開催場所：名古屋市立大須小学校
 主催：国土交通省 中部運輸局
 協力：社会福祉法人 名古屋市中区社会福祉協議会
 大須学区地域福祉推進協議会
 参加者：小学5年生 22名

目をつむって階段の上り下りを体験したり、視覚障がい体験コースを歩いたりしました。その後、障がい者の方の講話や盲導犬の説明がありました。
 参加児童からは、「障がい者の方の苦労や工夫がよく分かった」「盲導犬の役割がよく分かった」「点字ブロックが2種類あるのを初めて知った」「目を閉じて歩くのはすごく怖かった。体験で、どのように声をかければ良いかが分かった」といった感想がありました。



「心のバリアフリー教室」開催について (令和5年度②)

開催日程：令和5年11月21日(火)
 開催場所：名古屋城 二の丸広場
 主催：国土交通省 中部運輸局
 協力：名古屋市名古屋城総合事務所
 参加者：若干名(一般)



名古屋城で開催されていた秋まつりの期間に合わせ、点字ブロックを使った視覚障がい体験を実施しました。白杖を使い、地面に設置した簡易点字ブロックの上を歩く体験ですが、参加者からは、「以外と難しい。これで歩けるのはすごい」「白杖も使いこなすのは難しいと思った」との感想がありました。

開催日程：令和6年1月23日(火)
 開催場所：JR岐阜駅 北口駅前広場
 主催：国土交通省 中部運輸局
 協力：岐阜市
 参加者：若干名(一般)



岐阜駅北口駅前広場にて、点字ブロックを使った視覚障がい体験を実施しました。参加者からは、「足裏だけでは誘導ブロック(長型)と警告ブロック(点字)の違いが分かりにくい」「実際に体験してみて、駅などで白杖を使っている方を見たことがあるがスムーズに歩いている方がすごい」との感想がありました。

“バリアフリーおもてなし勉強会“

開催日程：【第1部】令和6年2月19日(月) 【第2部】令和6年2月28日(水)
 開催場所：【第1部】名古屋国際会議場 【第2部】サポートイン南知多
 主催：国土交通省 中部運輸局
 後援：愛知県、名古屋市
 協力：公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会
 一般社団法人ウェルネスインバウンド協会
 参加者：2026アジア・アジアパラ競技大会関係者
 (公共交通事業者、宿泊事業者、組織委員会、行政機関等)



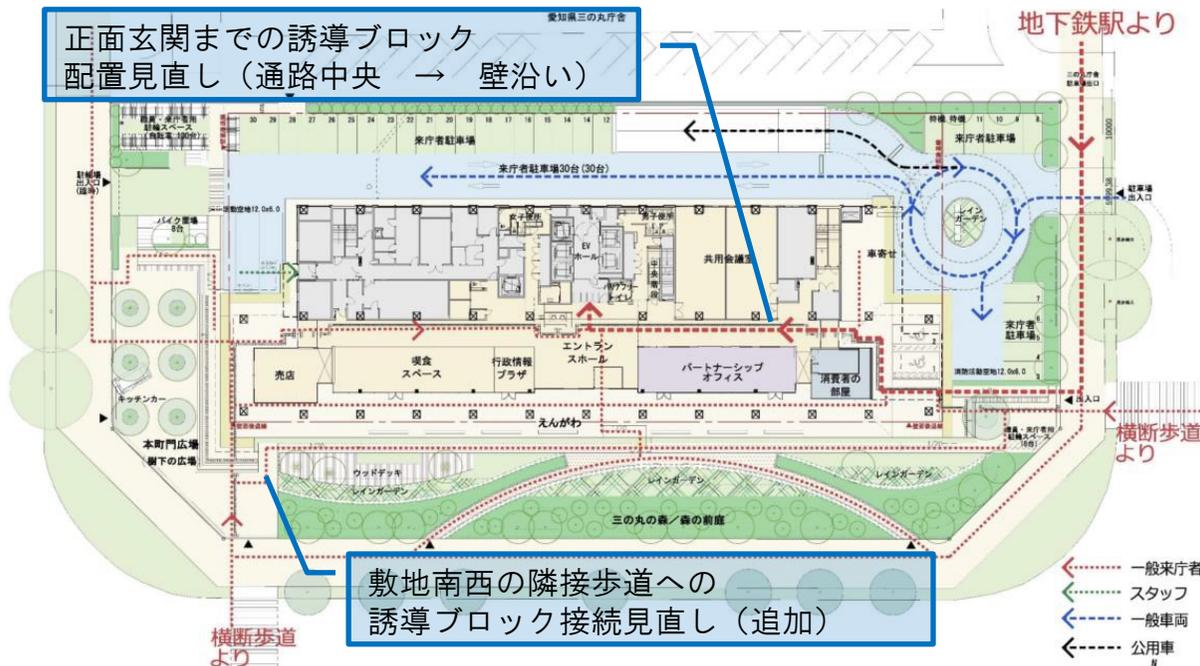
令和8年10月に愛知県で開催予定の「2026アジアパラ競技大会」に向けて、関係者(公共交通事業者、宿泊事業者、組織委員会、行政機関等)を対象とした『バリアフリーおもてなし勉強会』を開催した。講師には、パラスリートやバリアフリーツアーの情報発信をしているNPO法人、中部運輸局長表彰を授賞した日本初の福祉旅館等を招き、移動や宿泊施設等で必要とされる配慮などを学んだ。また、リフト付大型観光バスやUDタクシーの実演見学も併せておこなわれた。



名古屋第4合同庁舎整備事業での取組事例

誰もが「働きやすい・使いやすい・立ち寄りやすい」庁舎をめざしたユニバーサルデザイン計画

- バリアフリー法に基づく「建築物移動等円滑化誘導基準」に適合
- ピクトサイン（ISO規格）を活用した分かりやすいサイン計画
- 外構、低層部のサインは多言語対応
- 段差のない広場、ゆとりのある通路幅
- 非常時対応として、光警報装置の設置、エントランスホールに設置するデジタルサイネージやエレベーター内の案内表示による文字誘導など、聴覚障がい者、高齢者、外国人にも対応



○より多様な意見を反映させるため、設計段階にてユニバーサルデザインワークショップ（UDWS）を開催

○障がい関係者団体に所属する32名と、アドバイザーとして学識者が参加

○UDWSで出された意見（敷地内誘導ブロックの配置見直し ほか）を設計に反映

アジパラ競技大会に向けた愛知県の取組

大会概要

大会期間：2026年10月18日（日）～10月24日（土）（7日間）

参加者数（選手団(選手・チーム役員)）：3,600～4,000人

実施競技数：18競技

メイン会場：名古屋市瑞穂公園陸上競技場

参加国：45の国と地域

これまでの開催地

2010年：第1回大会（中国・広州）

2014年：第2回大会（韓国・仁川）

2018年：第3回大会（インドネシア・ジャカルタ）

2023年：第4回大会（中国・杭州）

Aichi-Nagoya 2026 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

○ 策定主体

愛知県/名古屋市

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会

○ 策定過程

・「アクセシビリティ・ガイドライン検討会」を設置

▶学識者、障害者団体、アスリート等の当事者など委員22名で検討

・3回の検討会開催ののち、2024年12月12日に策定・公表

アジパラ競技大会に向けた愛知県の取組

○ ガイドラインの構成

(1)前文(目的、考え方)

- ・「既存施設の活用」を考慮しつつ、ハード・ソフト両面の国際的な水準に基づくアクセシブルな環境整備を促進
- ・ガイドラインを活用した自主的な幅広い取り組みを通じてインクルーシブな地域づくりを推進

(2)技術仕様

- ・「アクセスと移動」、「アメニティ」、「ホテル及びその他の宿泊施設」、「刊行物とコミュニケーション」、「輸送手段」の項目別に推奨基準、標準基準を設定。

(3)アクセシビリティ研修

- ・「障害者等に対する接遇・アウェアネス(気づき)研修」、「役割別研修」、「会場別研修」の3段階の研修について、それぞれの特徴や実施手順を記載。
-
-

- 実際に身をもって体験することにより交通バリアフリーに対する理解を一層深め、道路空間の利便性・安全性のより一層の向上に努めていく事が重要と考え、近畿技術事務所構内に車いす体験、白杖・アイマスク体験ができる実物大の「交通バリアフリー比較体験コース」を構築しています。
- 令和5年度は8回実施し（府市5、大学1、小学校2）、延べ293名が体験。
令和6年度も5月末現在、大阪府や大阪市職員、大学生、中学生等延べ107名が体験。

【体験の様子(令和6年5月)】

わずかな段差でも前輪が
つかえてしまい、
大変だと分かった。



車いす体験

白杖で点字ブロック
の感覚を掴むのが
意外と難しかった。



白杖・アイマスク体験

2021年3月、関西エアポート(株)が関西国際空港リノベーション・バリアフリー検討会を設置

- 1994年に開港した関西国際空港(第1ターミナル)においては、国際・国内旅客数が当初計画と実態との間でギャップが発生。また、2025年の大阪・関西万博に国内のみならず世界各国から多くの方が来場することが予想される中、関西国際空港は関西の空の玄関口として「ファーストパビリオン」の役割を果たすことが期待される。
- そこで、空港運営会社の関西エアポート(株)が、国際線キャパシティを拡大するリノベーションを実施しているところ、誰もが利用しやすい旅客施設となるよう、関西エアポート(株)が立ち上げた検討会に、障害当事者を含む移動等円滑化評価会議近畿分科会委員が参画。
- トイレ、サイン、エレベーター、エスカレーター等の箇所別、車いす、視覚、聴覚等の障害種別毎に現場確認も実施し、障害当事者の要望について意見交換を実施。

開港時計画

- 国際線1,200万人
- 国内線1,300万人



2018年度

- 国際線2,060万人
- 国内線 400万人

リノベーション計画

※ 国際線エリアを25%増、関西国際空港全体で4,000万人能力を予定

- 2021～2022年度(フェーズ1): 新・国内線エリア増築・改修、国際線到着動線の増築、税関レイアウト変更
- 2022～2023年度(フェーズ2): ランドサイド商業エリア、国際エアサイドエリア(中央)、出国審査場の新設
- 2023～2024年度(フェーズ3): 国際ラウンジエリア、新・入国審査場の新設、保安検査場エリア増築、グランドオープン(主要機能完成)
- 2025～2026年度(フェーズ4): 国際商業エリア(南・北)新設

検討会の開催 (R3年3月～)

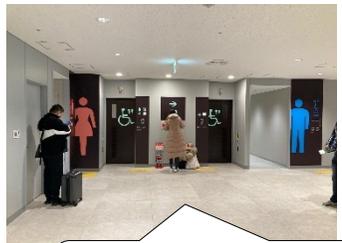
- メンバー: 移動等円滑化評価会議近畿分科会委員と(状況に応じて)委員以外の障害当事者、学識者
(※移動等円滑化評価会議: 移動等円滑化の促進のため、関係行政機関、障害者等、地方公共団体、施設設置管理者等の関係者で構成)
- 関西国際空港リノベーション工事フェーズ3(4階保安検査場一部)見学会 .(2024年8月2日、8月9日開催)

トイレサインの改善:フェーズ1



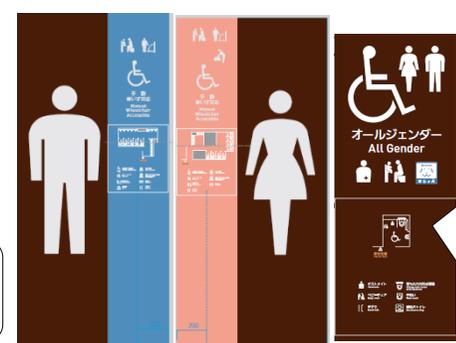
男性ピクトと車いすピクトが同色(=施設サイン色)のため、車いすが男性用に見える

フェーズ2



女性ピクト赤、男性ピクト青、車いすピクト緑(=施設サイン色)に改善

フェーズ3



男女ピクトではなく、ライン等で色を表現。ピクト全て白色
オールジェンダー一表記追加

令和6年6月9日（日）京都市下京区にある梅小路公園において、バスまつり来場者（主に小学生の親子連れ）を対象に、京都京阪バス株式会社様の宇治茶バスを使用して、バリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー教室では、バスのバリアフリーの工夫を聞いたり、本教室に協力いただいた障害当事者講師（車椅子使用者）の六條さんと京都京阪バス株式会社様によるバスの乗降実演や六條さんとの交流を行いました。また、視覚障害の擬似・介助体験も行い、お手伝いの必要性や障害への理解を深めました。

参加者からは、「体験をして、気持ちを知ることが出来ました」「こまっている人がいたりしたらたすけてあげたいです」など様々な感想が寄せられました！

令和6年6月9日（日）12:15～13:00

【内容】

- 挨拶
- ノンステップバスの説明
- 車椅子のバス乗降・固定見学
- バスのバリアフリーの工夫紹介
- 心のバリアフリーについてのお話
- 六條さんへの質問
- 視覚障害疑似体験及び介助体験
- 記念撮影

車椅子のバス乗降等見学

バス乗車→車椅子固定→降車の様子を見学。バスのバリアフリーの工夫等も学びました。



六條さんへの質問

様々な質問があり、実体験を基にした貴重なお話を聞くことができました。



電動車椅子を押してみよう

六條さんが使用している100kg超えの電動車椅子。実際に押してみても重さを実感。



視覚障害疑似体験・介助体験

アイマスクと白杖を使い、介助役の手引きで、バス乗車→椅子に座る→降車ボタンを押す→降車を体験。



- 日時：令和6年3月7日（木） 14：00～16:00
- 場所：エディオンピースウイング広島
- 参加者：移動等円滑化評価会議 中国分科会 構成員
- 主催：中国運輸局 中国地方整備局
- 協力：株式会社サンプレツェ広島 大成建設株式会社
- 内容：スタジアム内のバリアフリー関連設備の視察

◆取組のポイント◆

- 様々な特性の当事者団体の参加による **多様な意見の収集**
- **最新の大規模集客施設**のバリアフリー状況の視察



センサリールーム

広島モデルの
視覚障害者誘導用ブロック

キッズルーム

ヒアリンググループ設置席

ペDESTリアンデッキ



《参加者からの御意見》

- ◆センサリールーム
 - ・キューブ型のイスやソファ、ヨギボーなど感覚が癒やされる物を多く取り入れてくださってました。
- ◆広島モデルの視覚障害者誘導用ブロック
 - ・視覚障害者とそうではない人とのインクルーシブが感じられる。幅、高さが半分の広島モデル。効果が楽しみ。
- ◆キッズルーム
 - ・年齢に対応した遊具や設備があり、スポーツ観戦時だけでなく、通年で子ども連れで遊びに行ける場としての利用が期待される。
- ◆ヒアリンググループ設置席
 - ・全席に設置をして誰もがどこで観戦するかを決めていけるスタジアムであってほしい。
- ◆ペDESTリアンデッキ
 - ・エレベーター前のひさは雨天時の傘の始末などがストレスなく出来る。万人に優しく設計されている。
- ◆その他感想
 - ・合理的配慮が様々されており、様々な障害のある方、高齢者の方など利用しやすい工夫がされていました。
 - ・何もかも検討に検討を重ねて、皆さんの喜ばれるように障害者に優しく楽しい時を過ごせるように配慮されていることに感謝です。
 - ・試合終了後の移動には特に気を使っていただけのようなマナーのいい、それこそ日本一の観客の皆様であって頂きたいと思えます。

その他の好事例

①カームダウンエリア



②広いバリアフリーストイル



③手すりの低い車椅子席



④庇付きエレベーター



- 日時：令和6年4月24日（水）10:00～11:15
- 場所：広島合同庁舎 海技試験場横
- 参加者：中国運輸局バリアフリープロモーター
NPO 法人日本頸髄損傷LifeNet 理事長 徳政宏一 氏
- 主催：広島電鉄株式会社、中国運輸局
- 内容：エレベーター付きリムジンバスの体験試乗
バリアフリープロモーターによる講話

◆ 取組のポイント ◆

- ・中国地方初導入の「**車椅子用エレベーター**」、「**車椅子スペース**」を備えたリムジンバスの体験
- ・中国運輸局職員への「**障害の社会モデル**」、「**心のバリアフリー**」の啓発

バリアフリーバス車両の説明

バリアフリープロモーターによる
デモンストレーション①

バリアフリープロモーターによる
デモンストレーション②

バリアフリープロモーターによる
講話

中国運輸局職員による
体験試乗



《徳政氏による講話》※一部抜粋

「23年ぶりにバスの車窓から景色を見ました。**心のバリアフリー**については、**お互いの配慮の気持ちのマッチングだ**ということ、お互いが優しい気持ちで支え合うことで共生社会を生み、バリアフリーをより良いものにしていくことになると思います。」

今回のエレベーター付きバスはそのような思いから生まれたものであり、**障害当事者にとって国内、国外で旅行するという夢が広がる**ことを強調されていました。

《参加職員からの感想》

・旋回するスペースが十分にあり、昇降の際の揺れもほとんどなく、**とても安心して乗車できました**。また、運転手の方が常に声かけをしてくださり、**心のバリアフリーも肌で感じられる貴重な体験**でした。

《総括》

・先進的なバリアフリー車両をバリアフリープロモーターである車椅子利用者に体験していただいた。リフト付きに比べて、困われていることから、**安心感が増し、好評であった**。
・中国運輸局職員を対象にした講話や体験を行うことで、**障害の社会モデルや心のバリアフリーへの意識を向上させる**ことができた。

- 日時：令和6年6月28日（金）13:20～15:00
- 場所：広島空港旅客ターミナルビル2階
- 参加者：三原市立本郷西小学校4年生 30名
- 主催：中国運輸局
- 協力：三原市本郷西小学校、社会福祉法人三原市社会福祉協議会、広島国際空港株式会社、広島電鉄株式会社、大阪航空局広島空港事務所
- 内容：地元の小学生を対象にした広島空港内でのバリアフリー教室

◆取組のポイント◆

- ・車椅子利用者による**直接の指導と対話**
- ・生徒**自らバリアフリーについて考えること**

①講師による講話

②車椅子体験

③バリアフリークイズ

④バリアフリースレ見学

⑤エレベーター付
リムジンバス体験・見学



《講師による講話》※一部抜粋

「戸を開けてあげるとか、ものを拾ってあげるとか、**みんなができることをすることで、もっともっとバリアフリーになるんじゃないかなと思う**。助け合いの心がバリアフリーだと思うので、みんな助け合って生きていきましょう。」

児童はバリアフリーについて事前学習をしており、すべてのプログラムに積極的に取り組んでいました。特に講師への質問コーナーでは多くの児童が手を挙げており、**車椅子ユーザーのことを知ろうとする姿勢が見られました**。

《参加児童からの感想》

- ・車いすに乗っている人は上の物と下の物がとれないとわかりました。
- ・ヘルプマークや耳マークを初めて知りました。
- ・段差を乗り越えることよりも、落ちていた物を拾う方が大変だった。しかし、それは車椅子を押してくれる人がいたからだと思う。助け合いの重要性を感じた。
- ・大本先生が、一番くやしいことは行きたいお店があっても行けないと言っていてはくも、そうだったらとってもつらいと思いました。
- ・他にもどんな工夫で出来ているバリアフリーがあるのか知りたいです。
- ・もしえんぴつを落としていたら、拾ってあげるのではなく、やさしく声をかけたりお願いされたら拾ってあげようと思います。
- ・こまっている人がいると、こえをかけるのが少しははずかしいけど、たすけてあげたいです。たすけられるようになりたいです。

研修を通じて乗務員等が高齢者の移動の困難さを理解することに繋がると共に、輸送サービスの向上と安全性の確保に貢献

○一般社団法人愛媛県バス協会

愛媛県松山市大手町1丁目7-4
伊予鉄大手町ビル2階
会長 清水 一郎

○特定非営利活動法人わをん

愛媛県今治市南日吉町2-2-38
理事長 重松 美穂

取組みの概要

- ◆ 交通バリアフリー疑似体験研修を東予・中予・南予で関係者と連携し、継続して実施している。当研修ではバス乗務員等を対象として、車いすやアイマスク、高齢者疑似体験セットを使用した介助体験等を行い、高齢者の物の見え方や身体の動かしづらさ等を伝えることで、高齢者の移動の困難さを理解してもらい、高齢者や身体障害者等が公共交通機関を利用時の利便性及び安全性の向上の促進に繋げている。
- ◆ 上記交通バリアフリー疑似体験研修については、2004年より開始。東予・中予・南予で継続して実施している。
(新型コロナウイルス感染症拡大時は研修動画を作成し対応)



四国運輸局では、交通バリアフリーについての理解を深め、誰もが高齢者・障がい者等に対し、自然に快くサポートできる社会を実現するため、平成13年度から「バリアフリー教室」を開催しています。

サポート方法を学ぶだけでなく、高齢者・障がい者等の困難を自らの問題として認識するきっかけとします。



【令和5年度四国運輸局バリアフリー教室開催状況】

実施日	開催場所	参加者数	対象
令和5年5月17日	JR高松駅	9名	四国運輸局・四国地方整備局職員
令和5年6月27日	高松市立亀阜小学校	100名	小学生(5年生)
令和5年6月28日	藍住町立藍住西小学校	89名	小学生(4年生)
令和5年9月25日	高松市立花園小学校	30名	小学生(3年生)
令和5年11月7日	鳴門市立林崎小学校	48名	小学生(4年生)
令和5年11月13日	徳島市立上八万小学校	59名	小学生(3年生)
令和5年12月5日	ことでんバス株式会社	10名	乗務員

☆バリアフリー教室を体験された児童の皆さんからいただいた感想（一部抜粋）☆

- ◆ 体験させていただいたことをわすれずにこれからの生活に活かしていけたらいいなあと思いました。
- ◆ 私は車いすや目が見えない人が大へんなことを知り、大へんそうにしていたり、こまっている人がいたら助けようと思いました。
- ◆ くるまバス、目が見えない体験をして、みなさんが手伝ってくれたおかげで安心してバリアフリー体験ができました。こんなたいへんな事をしているんだとあらためて分かりました。こんなたいけんをはじめてして、もし、こまっている人がいたら助けたいです。
- ◆ この活動を通して、もっとバリアフリーについて考えてみたい、という気持ちになりました。



（四国地方整備局・四国運輸局共催）

日時	令和6年2月28日（水）
場所	高知市文化プラザ かるぽーと（対面・オンライン開催）
内容	高知県内の移動等円滑化の進捗状況について 意見交換 ほか
参加者	高齢者・障がい者団体、支援団体、施設設置管理者等、学識経験者、地方公共団体、国

○出席者からの意見・要望

○インフラ・ハード面

- 高知県内の信号機における音響設置率について、県内には1500基以上の信号機が存在する。そのうち音響が設置されているのは、240基ほどで16パーセントの音響率である。早急に設置数の促進をお願いしたい。
- 無人化駅の増大と共に切符が買いにくい。「介助のいる方は連絡してください。」といわれるが、その番号はほとんどわからない。事業者はチケットアプリでの購入をすすめているが、視覚障害者にはスマホを使っての購入は難しい。
- 高知県の路外駐車場のバリアフリーの割合は0%。福祉車両を乗り降りをする際に、一般向けに作られているスペースが狭く、広めのスペースがあれば、出入りしている他の車を待たしてしまっで申し訳ない気持ちにもなりませんし、事故に繋がる危険性もなくなるので導入をお願いしたい。
- ETCの無人機の対応が分かりづらい。聴覚障害をもっているため、音声では分からない。結局は職員が来てくれるが、音声での情報を視覚化して欲しい。
- 公共交通におけるバリアフリー車両の導入を急いでいただきたいです。（バス、鉄道の低床車両、車いす席のある車両等の導入）また、それぞれ現状の導入状況と、今後の目標値・計画などがあればお教えください。
- 電動車いす・シニアカーの方が外出される際の充電が出来る場所がなく困るという問合せも多い。特に公共性が高い場所（市町村役場、駅や空港等）では、充電対応を行える場所が増えて欲しい。

○心のバリアフリー・ソフト面

- 障がいのある方達の中には事故の折、対応が難しいです。例えば外傷が見られない場合など「大丈夫ですか？」には「大丈夫」「はい」などおうむ返しなども多いです。ヘルプマークなど付けている障がい者の方がいる時などは、必ず救急を呼ぶとかの対応をお願いしたいです。
- 難病患者や家族の現状として、患者本人の移動の困難さに加え、家族の高齢化等もあり、患者・家族だけでは外出の自由が担保できない状況にあります。交通だけでなく、障がい福祉、高齢、防災、中山間、観光などの部門も含めた横断的なバリアフリー施策をお願いしたいです。
- 公共交通やタクシーの利用に際した合理的配慮（特にソフト面での対応）について、各事業所内での周知徹底と柔軟な現場対応を進めていただきたいです。また、合理的配慮の提供について取り組み状況などあれば教えてください。
- 高知県の公共交通システムが規模縮小することに伴い、補完するように地域の自治体が、コミュニティバスを運行して補完して運行していますが、知的障害や発達障害の方々の利用に際して、どのような研修や支援をされているのか、お伺いしたいと思います。

(四国地方整備局・四国運輸局共催)

日時 令和6年1月24日(水) 14:00~16:00

場所 四国運輸局 会議室(オンライン・対面形式開催)
内容

- ① 移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成支援について
国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課
- ② 国土交通省におけるバリアフリー化の取組についてのご案内
四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課
四国運輸局 鉄道部 計画課
- ③ 認知症バリアフリー ~誰もが暮らしやすい社会をめざして~
特定非営利活動法人 わをん

出席者 四国19自治体、四国地方整備局、四国運輸局職員

令和5年度「移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想の作成支援
及び
「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナー」
日時 令和6年1月24日(水) 14:00~16:00
場所 電気サンポート合同庁舎南館5F 福祉研修室
オンライン・対面形式(Microsoft Teams使用)
出席者 四国19自治体、四国地方整備局、四国運輸局職員
議題 ①移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成支援について
国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課
②国土交通省におけるバリアフリー化の取組についてのご案内
四国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課
四国運輸局 鉄道部 計画課
③認知症バリアフリー ~誰もが暮らしやすい社会をめざして~
特定非営利活動法人 わをん 門田 千香 氏

特定非営利活動法人 わをん 副理事長 門田千香氏を講師として招き、わをんの活動内容をはじめ、認知症の基礎知識や認知症から考えるバリアフリーについてご講演いただき、認知症の人の気持ちや暮らしを伝える、グループワークも行われました。参加者からは、「ハード面だけでなくソフト面でもどう改善すべきか等」を考えるきっかけになったとの声もありました。



上記セミナーでは、移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想の作成支援に関する説明のほか、高齢者・障がい者等への支援活動にご尽力なされている特定非営利活動法人 わをん副理事長門田さんのご協力のもと「障害の社会モデル」の理解促進に関するセミナーを開催いたしました。

セミナーでは、わをんさんの活動内容をはじめ、今後、高齢化がさらに進んでいくことが見込まれる日本での認知症高齢者の現状、認知症の基礎知識及び認知症から考えるバリアフリーについてご講義いただきました。セミナー内ではグループワークも開催され、参加者からは、「ハード面だけでなくソフト面でもどう改善すべきか等を考えるきっかけになった」との声もありました。

今後も、障がい当事者、支援団体等のご協力のもと、「心のバリアフリー」「障害の社会モデル」の普及啓発を行ってまいります。

認知症について
認知症 施策推進総合戦略(新オレンジプラン)
~認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて~
厚生労働省

○わが国の認知症高齢者の数は、2025(令和7年)年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。

○厚生労働省では、国境の世代が75歳以上となる2025(令和7年)年を契機として、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、新たに「認知症施策推進総合戦略~認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて~」(新オレンジプラン)を関係府省庁と共同で策定しました。(平成27年1月27日)。

関係府省庁(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、経済省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を!

令和5年度 九州におけるユニバーサルツーリズム推進のための実証事業 訪日クルーズ船寄港地を起点とした世界遺産を含む着地型UT対応商品造成に向けた検証

- ✓ 九州UT推進の新たな切り口として、クルーズ船は船内がバリアフリー化されておりユニバーサルツーリズム(UT)との親和性が高いうえ、九州への寄港も多いことから、訪日クルーズ船の本格再開を見据え、主要な寄港地におけるUTに対応した高付加価値な着地型商品の開発（モデルコース設定、モニターツアー実施）及び受入体制の整備について検討。
- ✓ 事業では、九州7県のクルーズ船寄港実績がある寄港地の7港を対象に9つのモデルコースを検討し、うち3港（博多港、長崎港、鹿児島港）に対してモニター検証及び受入体制整備について検討。
- ✓ 博多港、長崎港、鹿児島港については、検討結果からニュースレター及び360度動画を作成し、欧米豪の旅行会社50社へ情報発信をしてアンケート調査を行った。結果として各着地型UT対応商品に対して興味及び販売の可能性があるという回答を多くの旅行会社から得た。

事業実施地域における現状・課題
<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ● クルーズ客船は船内がバリアフリーであり、UTとの親和性が非常に高い一方、寄港地での着地型UT商品は少ない状況。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● アジアからの訪日客が大部分を占める九州地域の観光を欧州市場、特に富裕層へ売込みと、アジアからのリピーターの獲得に向け、クルーズ船客の上陸観光における世界遺産を含むUT対応商品という新たな切り口で充実を目指す。

効果検証・事業評価
<p>①各県主要寄港地におけるUTモデルコースの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 九州各県のバリアフリーツアーセンター（BFTC）とUT有識者と共に7港におけるUTモデルコースを作成。うち長崎と鹿児島はBFTCの意見を踏まえ2コースを作成、合計9コースにつき検討。 <p>②クルーズ船寄港数が多い博多港、長崎港、鹿児島港の3港でのモデルコースにつきモニターツアーによる観光商品化へ向けた磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車いすモニターと外国人モニターでモデルコースを検証した結果、主に立ち寄り観光地での多言語化、車いすへのバリア対策、時間にゆとりある上陸観光といった点が課題として抽出された。 ● また、富裕層向けの昼食については、通訳案内士からクルーズ船内で十分食事をしているため、必ずしも豪華な食事を準備することが望ましいとは言えないというアドバイスがあった。 ● 一方、有識者による長崎のように坂道が多い地域でのUT観光へのアドバイスは、地域関係者にとって大いに参考となった。 <p>③3港商品の360度動画、ニュースレターで欧米豪に旅行会社へ配信・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3港の造成したツアーに対し、360度動画と世界遺産の概要をはじめとするトピックスを掲載したニュースレターを作成し、欧米豪の旅行会社50社へ情報発信を行った。 ● そのうち12社からアンケートの回答が届き、多くの旅行会社がツアーに興味を持ち、商品として取り扱う可能性があることがわかった。

今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> ● ツアーのタリフやニュースレターを整理しているが、販売に向けては、クルーズ船を扱う旅行会社、船社及びランドオペレーターなどの検討、調整が必要である。 ● 中でも鹿児島港で取り入れた温泉介助付き入浴体験は、UT販売サービスとして存在するので、積極的な展開が望まれる。 ● また長崎港で協力を得たタクシー事業者は、ツアーに興味を持ち、かつ観光商品を扱う部署があることから、商品化に向けた調整をすることが求められる。

事業概要																
<p><事業主体> 九州運輸局、福岡空港しようがい者・こうれい者観光案内所、佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター、長崎バリアフリー推進協議会、長崎県ユニバーサルツーリズムセンター、別府・大分バリアフリーツアーセンター、宮崎ユニバーサルツーリズムセンター、かこしまバリアフリーツアーセンター</p> <p><取組概要> 【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①クルーズ船における車いす等利用の現状及びUTニーズ調査 <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社2社、船社1社、ランドオペレーター2社へ調査実施 ・クルーズ船旅行において車いす使用者は少数であるが必ずいるため、寄港地でのUT対応商品の必要が確認された。 ②九州7県主要寄港地におけるモデルコースの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・各県モデルコースの検討件数 博多港（1）、唐津港（1）、長崎港（2）、八代港（1）、別府港（1）、油津港（1）、鹿児島港（2）計9コース ③着地型UTモデルコースの造成及びモニターツアー実施によるコースの検証 ④360度VR動画の作成 ⑤ニュースレターの配信等によるニーズ検証 ⑥関係者会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・上記③～⑥は博多港、長崎港、鹿児島港の3港を対象に実施 																
<table border="0"> <tr> <td></td> <td>【博多港】</td> <td>【長崎港】</td> <td>【鹿児島港】</td> </tr> <tr> <td>モニター ツアー</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニュース レター</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>360度 動画</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		【博多港】	【長崎港】	【鹿児島港】	モニター ツアー				ニュース レター				360度 動画			
	【博多港】	【長崎港】	【鹿児島港】													
モニター ツアー																
ニュース レター																
360度 動画																

令和5年度 九州におけるユニバーサルツーリズム推進のための実証事業 車いす等をレンタルする際の手続ワンストップ化実現のためのプラットフォーム構築に向けた実証

- ✓ 九州におけるユニバーサルツーリズムをより一層推進するため、令和4年度に、九州各県のバリアフリーセンター（BFTC）等との連携のもと「どこでも車いす・ベビーカー実証事業」を実施し、旅行先での車いす・ベビーカーに対する高いニーズを確認したところであるが、①費用面、②各BFTCの受入体制等の持続可能性を踏まえた貸出・返却スキーム、③関係者間の連携のあり方、④手続のワンストップ化に向けたプラットフォームの構築が課題とされ、このうち、④の課題について実証事業を通して今後の展開・継続性等を検証した。
- ✓ プラットフォームを各BFTCと調整しつつ予約受付及び管理等をスマホやPCで可能とするシステムを構築して実証を行った結果、36件の申し込みがあり、車いす15件、ベビーカー21件の貸出実績となった。インバウンド等へはInstagramでの情報発信で約8万件のリーチ数を得たが、実証期間中の貸出は無かった。
- ✓ 利用者アンケートでは、システムや貸出サービスに対する満足度は非常に高く、実施したBFTCからもシステムの継続性についての意見が上がった。

事業実施地域における現状・課題

<現状>
九州各県のバリアフリーセンター（一部を除く）では、日頃より車いすやベビーカーのレンタルサービスを行っている。令和4年度に、イン・アウトで県が異なる広域周遊観光に対応できる「どこでも車いす・ベビーカー」実証事業を行ったが、現時点では本格運用に至っていない。

<課題>
九州各地での車いす等の乗り捨てサービスは費用面や受入体制面で課題があるが、解決に時間を要するため、まずは、バリアフリーセンター間の連携を支えるプラットフォームを構築し、九州域内のシームレスなサービスを展開する必要がある。

効果検証・事業評価

- 実証期間では、BFTCへの電話等によるレンタル予約もあったが、本事業は車いす等をレンタルする際の手続ワンストップ・プラットフォームの検証が目的であるため、システムによるデータをもとに検証した。
- 手続ワンストップ・プラットフォーム・システムにおいて、予約の際に入力する居住地や貸出用品を集計すると、36件の貸出・返却があった。その内訳はベビーカー21件、車いす15件。利用者の居住地は、九州域内が17名、関東居住者が12名、その他の地域が7名と広域な居住地の利用者が利用したとわかった。
- 利用者アンケートによると、システムの使いやすさは95%が「大変使いやすい」「使いやすい」と回答。今後の利用意向についても好評を得た。
- 本事業では、貸出と返却を同一BFTCとする仕組みで実施したが、利用者アンケートでは、他県で返却する必要があるが44%、必要がないが11%と必要とする意見が多く、その時の車いす等の送料負担についても受け入れる回答が多かった。このような回答から、費用負担、配送システムなどについて宅配事業者との連携を検討する必要があることがわかった。
- また、手続きワンストップ・プラットフォーム・システムの利用に対してポスターやチラシ、HP以外に、Instagramによる情報発信を行うことで延べ28日間（4言語×7日間）で総リーチ数が8万件と情報閲覧されていることがわかったが、継続的な情報発信でないとインバウンドも含めて予約受付まで結びつかないことがわかった。

今後の展開

- 本事業によるシステムの活用とSNSによる情報発信など継続的なプロモーションを通して、九州内のUT広域観光周遊を推進する必要がある。そのためには、8つのBFTCの横の連携をさらに強化すること、車いす等の貸出と返却をどこでもできる仕組みを構築する必要がある。

事業概要

<事業主体>
九州運輸局、福岡空港しょうがい者・こわい者観光案内所、佐賀嬉野バリアフリーセンター、長崎バリアフリー推進協議会、長崎県ユニバーサルツーリズムセンター、別府・大分バリアフリーセンター、宮崎ユニバーサルツーリズムセンター、かこしまバリアフリーセンター

<取組概要>
【事業内容】
①BFTCと連携したプラットフォーム・システムの構築
②「車いす・ベビーカーワンストップレンタルサービス」実施

	令和5年度 車いす・ベビーカー ワンストップレンタルサービス
①予約受付方式	車いす等貸出手続ワンストップ・プラットフォーム・システム
②貸出返却場所	福岡県 福岡空港 佐賀県 嬉野温泉バスセンター 長崎県 長崎駅周辺（デリバリー）・長崎空港 熊本県 熊本駅・熊本空港 大分県 別府駅 宮崎県 宮崎空港 鹿児島県 鹿児島中央駅・鹿児島空港・レンタカー会社
③レンタル方式	貸出BFTCに返却
④レンタル料金	各BFTCの料金（宮崎のみ無料） ※1日 500～1,100円
⑤実証期間	令和6年2月1日（木）～令和6年3月6日（水）

- <実績>**
・各拠点での貸出・返却件数：福岡空港（6）、嬉野温泉バスセンター（2）、長崎駅（2）、長崎空港（1）、長崎デリバリー（3）、熊本駅（1）、別府駅（0）、宮崎空港（19）、鹿児島中央駅・鹿児島空港（2）
※鹿児島中央駅で貸出・鹿児島空港で返却が1件あり
- ・インバウンドの利用：0件
・県を跨いだ観光の利用：熊本貸出・熊本観光⇒宮崎観光⇒熊本返却（1件）
福岡貸出・福岡観光⇒熊本観光⇒福岡返却（1件）



○視覚障害者の踏切道内での事故を受け改定したガイドラインを踏まえ、特定道路上等の踏切道を大臣指定し、バリアフリー化を推進

改定したガイドラインでの記載内容概要

第7章⑥ 踏切道 (項目を新設し、踏切道関係の記載を集約)

▶ 踏切道手前部の視覚障害者誘導用ブロックと踏切道内誘導表示の設置方法及び構造を規定

【視覚障害者誘導用ブロック・踏切道内誘導表示の設置】

- ・踏切道内には、踏切道内誘導表示を設ける。
(標準的な整備内容)
- ・踏切道付近の視覚障害者誘導用ブロックと踏切道内誘導表示の標準的な設置方法及び構造を規定。(右図参照)

※歩道等が無い又は有効幅員が狭い場合の踏切道での対策についてもコラムへ掲載。

【歩行者通行空間の確保及び路面等】

- ・視覚障害者誘導用ブロックと遮断かんの間の路面はゴムチップ舗装とすることが望ましい。
- ・踏切道内のカラー舗装及び車道外側線の設置等が望ましい。
- ・車両への注意喚起看板等の設置が望ましい。
(望ましい整備内容)



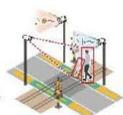
ゴムチップ舗装 カラー舗装 踏切道内の車道外側線 注意喚起看板

【実験結果概要】

- ・令和5年9月21日、10月3-5,12日に実施した評価実験を紹介

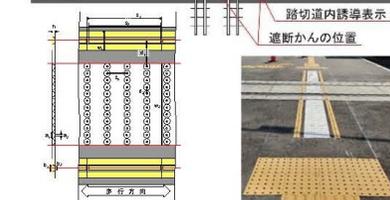
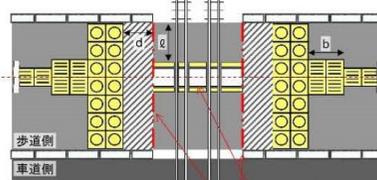
▶ コラム

- ・音に関する実証実験結果の紹介
- ・踏切道におけるバリアフリー対策の事例紹介等



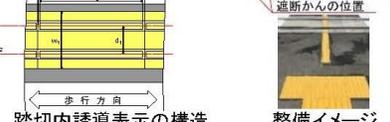
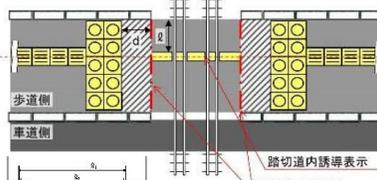
【標準的な設置方法及び構造】

①標準的な設置方法等



踏切内誘導表示の構造 整備イメージ

②幅員が狭い場合の標準的な設置方法等



踏切内誘導表示の構造 整備イメージ

◆踏切道改良協議会合同会議※等において、道路管理者、鉄道事業者、交通管理者に対し、ガイドライン改定を情報提供

福岡県	令和6年	1月22日
	令和6年	2月7日
佐賀県	令和5年	12月26日
熊本県	令和5年	12月26日
鹿児島県	令和6年	1月22日

※ 事務局 九州地方整備局道路部、九州運輸局鉄道部、県、政令市

◆特定道路や地域ニーズのある道路と交差する踏切道を「改良すべき踏切道」として法指定し、必要な対策を推進

◆対策に対し、踏切道改良計画事業補助や防災・安全交付金等により支援



熊本県踏切道改良協議会合同会議(R5.12.26)

文部科学省における取組①

公立小中学校等施設のバリアフリー化に関する取組

公立小中学校等施設におけるバリアフリー化の加速について

- 令和2年5月のバリアフリー法の改正により、**既存公立小中学校等施設のバリアフリー化が努力義務化**されたことを踏まえ、文部科学省では、**令和7年度末までの整備目標を設定し、取組の加速を要請。**
- 学校設置者は、**関係部局との連携を図りながら整備計画を策定し、計画的な取組を加速することが必要。**具体的には、**要配慮児童生徒の入学予定情報等を早めに収集しつつ、あらゆる機会を捉えて学校施設のバリアフリー化を図るとともに、長寿命化改修等の大規模改修時には、施設全体のバリアフリー化を進めることが重要。**
- 文部科学省では、令和3年度から、バリアフリー化のための改修事業について**国庫補助率を1/3から1/2に引き上げ。**

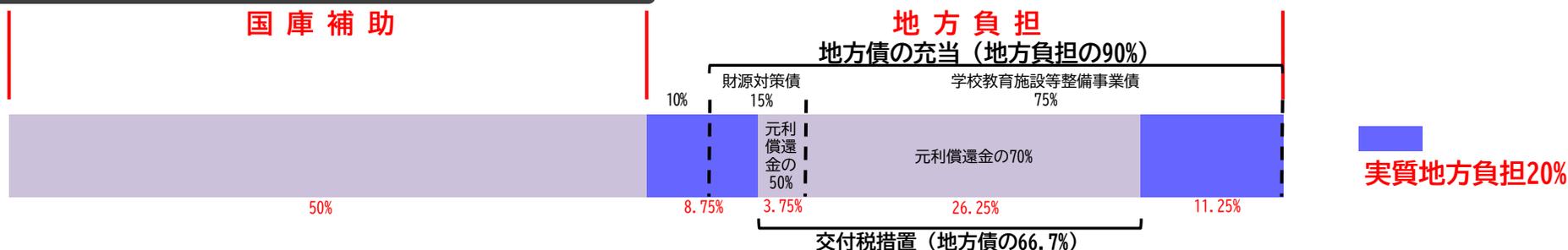
●バリアフリー化率の現状と、令和7年度末までの国の目標

※学校施設のバリアフリー化に関する**計画等がある地方自治体は25%**に留まる。

対象		令和2年度	令和4年度	令和7年度末までの目標	
バリアフリースイレ	校舎	65.2%	70.4%	避難所に指定されている 全ての学校 ※に整備する ※令和4年度調査時点で総学校数の約93%(校舎)、約98%(屋内運動場)に相当	
	屋内運動場	36.9%	41.9%		
スロープ等による 段差解消	門から建物の前まで	校舎	78.5%	全ての学校 に整備する	
		屋内運動場	74.4%		77.9%
	昇降口・玄関等から 教室等まで	校舎	57.3%		61.1%
		屋内運動場	57.0%		62.1%
エレベーター (1階建ての建物のみ保有する学校を含む)	校舎	27.1%	29.0%	要配慮児童生徒等が 在籍する全ての学校 ※に整備する ※令和4年度調査時点で総学校数の約41%(校舎)、約76%(屋内運動場)に相当	
	屋内運動場	65.9%	70.5%		

●バリアフリー化工事の国庫補助算定割合引き上げ

※地方負担分について、90%まで地方債を充当可能。そのうち66.7%が交付税措置される。



公立小中学校等施設のバリアフリー化に関する国の更なる取組について

- 令和4年12月、**学校施設のバリアフリー化に関する実態調査の結果を公表するとともに、各学校設置者に対し、改めて取組の一層の推進を要請。**
- 文部科学省ウェブサイト中に「**学校施設のバリアフリー化の推進**」の特設ページを開設。

特設ページでは以下の内容を公表

学校施設のバリアフリー化の検討や実施のほか
機運醸成等のためにご活用ください。

- ・ バリアフリー化に関する調査研究・事例集
- ・ 整備目標・実態調査
- ・ これまでの通知・事務連絡等
- ・ 国庫補助制度
- ・ 広報資料（ポスター、チラシ）
- ・ 相談窓口

掲載URL

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/mext_00003.html



また、整備計画の策定状況やバリアフリー化の状況のフォローアップを継続的に実施する予定。

文部科学省における取組②

心のバリアフリーノート

心のバリアフリーノート

経緯

- ・平成29年2月、「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」(関係閣僚会議)が取りまとめられ、次期学習指導要領の全面実施に先行して、すべての子ども達に「心のバリアフリー」に関する理解を深めるため、自分ごととして受け止め、生きて働く知識や経験とするための「心のバリアフリーノート(仮)」の作成を検討することについて明記。
- ・平成30年11月、文部科学省に学校関係者や障害者関係団体、有識者等で構成する作成検討会を設置。
- ・平成31年3月、作成検討会において内容及び構成の方向性についてとりまとめ。
- ・**令和元年11月、心のバリアフリーノートを作成・公表。**

内容・構成

- ・**様々な心身の特性や考え方もつ人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、学び合い・支え合い・育ち合う関係を形成していくことを目的に、児童生徒用(小学生用、中高生用)、及び教師用指導上の留意点(小学生用、中高生用)を作成。**
- ・「バリアフリーに関する基本的な理解」「バリアフリーについて考える学習」「バリアフリーについて行動する学習」で構成した児童生徒の書き込み用教材。

バリアフリー

バリアフリーの「バリア」とは、英語で障壁(かべ)という意味です。つまりバリアフリーとは人々が移動するときに障壁になっているバリアをなくすことです。

物理的なバリア

出入り口などに段差がある等

電車やバスなどの公共交通機関、道路や建物などで、利用する人が不便を感じたり移動しにくいバリアのことです。

例 段差、手すり、エレベーター、点字ブロックの上にある障害物、建物までの距離、思ったままでは動かない車椅子など。

制度的なバリア

日常生活に必要とされているサービスが利用しにくい等

社会のルールや制度によって、その人が持っている力を活かすことができない場合や受けられないバリアのことです。

例 障壁による制限があることも理由に、学校の入試、授業や家庭学習などに行けないことなど。

文化・情報面でのバリア

目の不自由な人のための音声案内がない等

情報の受け取りやすさ

情報のみによるアクセス

例 授業に合わせたタッチパネル式の教材、点字・手話訳のない資料、分かりにくい案内や難しい言葉。

意識上のバリア

のりない風見、偏見や差別、差別心など、意識がある人を受け入れないバリアのことです。

例 障壁がある人に対する理解がなく、思いやりや思いやりが足りない存在だと決めつけたりすること、点字ブロックがあることに嫌気がさす、その上になつたり物を置いたりすること。

バリアフリー社会を実現するためには4つのバリアを取り除くことが必要とされている。

学習シート

バリアフリーに関する基本的な理解の学習

1. バリアフリーの定義を説明しよう。

2. 4つのバリア(物理・制度・文化・意識)のバリアがあることを知り、どんなことを考えましたか。

3. 正にそのバリアフリーを調べよう。どんなことがあろうか。

バリアの種類	どんなことがあろうか

4. 自分や身近なバリアフリーの事例を調べよう。どんなことがあろうか。

5. そのバリアをなくすために、どんなことを考えましたか。

※グループやクラスで話し合ってみよう。

学習シート

実践的な学習

1. 自分が体験できる(できる)障壁(ホール)でのバリアフリー

2. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

3. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

4. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

5. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

6. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

7. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

8. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

9. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー

10. 自分が体験できない(できない)障壁(ホール)でのバリアフリー



※各学校の実態に応じて、様々な教科等で活用可能。

公共交通事業者での取組

- 各公共交通事業者において、障害者手帳等の提示を利用の都度求めることのない、ICカード等による本人確認の簡素化が促進されてきている。
- 昨今、障害者用ICカードの更新手続きにおいても、障害者の負担を考慮した方法がとられている例がある。関西を中心に岡山、静岡を含めた61の鉄道・バス事業者で構成されている「スルッとKANSAI協議会」においては、障害者ICカードの有効期限は5年間で、年1回の継続利用確認は、通知書（ハガキ）の返送で完結する手続きとなっている（駅での対面確認は不要）。

「スルッとKANSAI」ホームページから抜粋



継続利用確認の手続きについて

特別割引用ICカードは、年1回の「継続利用確認」の手続きが必要です。

年1回の継続利用確認手続きを済まされない場合は、**利用約款違反**となり【**利用停止**】となる場合がありますので、必ず手続きをお願いいたします。

※ただし、新規発行や有効期限到来による更新カード発行後、初回の継続利用確認手続きに限り、原則省略となり、ハガキは送付されません。（一部例外もございます。）

年1回の継続利用確認手続きは、

- カード更新時以外は、ハガキ返送のみ（駅での対面確認は不要）です。
- カード更新（有効期限到来）時は、駅での対面確認の手続きが必要です。

	継続利用確認手続き	カード更新（有効期限到来）時の手続き
ハガキ送付時期	誕生日月の約90日前（※1）	
お手続き方法	ハガキ返送のみ （駅での対面確認“不要”） （※3）	駅での対面確認（※2）
返送方法	返信用ハガキのみ郵便ポストに投函	

（※1）小学生は毎年1月。小学5年2月～6年1月にお申込みいただいた方は、2月に送付されます。

（※2）駅等の窓口において、手帳をご呈示いただき、カード記名人ご本人であることおよび「旅客鉄道株式会社旅客運賃減額欄」の区分に「第1種」の記載があることを確認させていただいた後、ハガキに確認印を押印いたします。
なお、確認印がない場合は、㈱スルッとKANSAIにおいて継続利用確認の手続きを受付けることができません。

（※3）資格に変更がある場合、特別割引用ICカードはご利用いただけません。速やかに特別割引用ICカードサービスセンターにご連絡ください。